

めざす児童生徒像

未来の創り手となる子の育成
・自ら学び、力をつける子（自分の学びを評価し、次の学びにつなげる振り返りを行うことができる）
・共に生き、互いの良さを認め合える子（自分たちの課題について相談・協力しながら納得解を見つけることができる）
・自分を磨き高められるたくましい子（成功も失敗も受け入れ、工夫や修正をしながら粘り強く最後までやり通すことができる）

※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定）	学校重点項目 未来の創り手となる子の育成	全ての項目で、肯定的な回答が100％	① 個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業に取り組んでいる。	100				全ての項目において教職員、児童は項目②③において100％、保護者は項目②では93.5％であった。結果から、教職員は全ての項目において意識して取り組んでいることがわかる。	今後も引き続き意識して取り組んでいく。また、児童自身が「成長できた。」と実感できる場を設定し、「あてはまる」と回答した児童が、「よくあてはまる」と回答するよう心がけていく。
			② あたり前がきちんとできる指導の徹底に取り組んでいる。	100	100				
			③ 児童が成長を実感できる活動に取り組んでいる。	100	100				
			集計						
重点項目 石川県共通 業務の改善	働き方改革	1か月の時間外勤務時間が4.5時間以下	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	90				項目①では、ほとんどの職員が削減に取り組んでいると回答している。項目②③では、自分の仕事の中で優先順位を決め、取り組んでいることがわかる。項目④においては、校務支援システムやICTは活用しているが、時間外勤務の削減のための活用になっていないと感じている職員がいることがわかる。	項目①で否定的な回答をした教職員と話し合いをし、削減に至っていないと感じていることを探っていく。項目④においては、時間外勤務時間の削減のための校務支援システムやICTの活用を引き続き模索していく。また、他校などからの情報収集を行う。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100					
			③ 仕事の優先順位を決めて仕事に取り組んでいる。	100					
			④ 時間外勤務時間の削減のために校務支援システムやICTの活用を行っている。	80	93.5				
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	少人数集団の学びを豊かにするための学習活動を実施している教員の割合が80％以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元（授業）構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100				今年度から取り入れた単元構想シートを研究全体会で共通理解を図り、実践している。研究授業の後に、「自分と比べながら聞く」「前時の振り返りは自分の言葉で」といった具体的な取組を決め、全職員が意識して実践している。少人数集団の学びを豊かにするために、他校との交流授業にも、取り組むことが出来た。	単元構想シートをもとに、つけたい力がついたかを活用問題で検証していく。人数の少ない学年は、リモートでの交流授業だけではなく他校に行つての交流授業も計画していきたい。
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語り、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100					
			③ 資料活用やICT活用など、少人数集団での最適な学びを追究している。	90					
			集計						
	指導力の向上	①～⑦の項目で教員の肯定的な回答の平均が80％以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	60	93.5		33.5	児童は肯定的な回答が多く、前向きに学習に取り組んでいる。①②③の結果から、教員が目指している具体的な姿が児童に伝わっていないことが分かる。	学年に応じた視点をもって他校の同学年の授業の様子を見て、自分たちの授業の様子と比べ、改善点を見つけていく機会を帯タイムに設定していく。また、校内でも他学年の学びに向かう姿勢から学んでいくことができるような機会を設定していく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	60	90.3		30.3		
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	60	93.5		33.5		
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達と考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えを伝えている。	80	93.5		13.5		
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90	93.5		3.5		
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	80	93.5		13.5		
			⑦ 児童は困難な課題に対して、自分なりに考え取り組んでいる。	80	96.8		16.8		
			集計						
	学力的向上	国語で学んだことを活用する場面を設定し、どんな力をつけたのかを実感できる（カリマネ）の項目の割合が90％以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100.0				今年度は、校区の小・中学校間で、他校の計画訪問の時に授業を見に行くことができ、他校の様子を知ることが出来ている。そこでの情報も積極的に共有している。	今後、中学校進学に向けて、小・小連携・小中連携を意識したカリマネをしていく。
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	90.0					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）	70.0					
			⑤ 国語科を中心に行事、総合、他教科等と関連付けたカリマネを行っている。	100					
			集計						
			① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100	87		-13	自学や漢字を計画的に進めることを指導し取組を続けてきたことで、自分で計画を立てて学習を進めることが出来るようになってきた。	今後も家庭学習強化週間の取組について、お便りやコードモンで呼びかけ、児童の取組の様子や成果を伝えていく。
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	80	90.3	87.1			
			③ 低学年児童は、家庭学習の習慣が身に付いている。			88.2			
			④ 高学年児童は、計画的に家庭学習に取り組んでいる。			100			
			集計						